

資産運用レポート：フィッシャー流成長株投資

1 はじめに

今から 61 年前の 1955 年。モトローラ社の将来性にすっかり惚れこみ、同社株を買い付けた投資家がありました。

2004 年に 96 歳でこの世を去るまで、約半世紀にわたって、彼はモトローラ株を保有し続けます。

その間、同社の純資産は 238 倍に達しました。投資期間があまりに長すぎ、正確なパフォーマンスを計るのは困難だそうですが、株価も優に 100 倍を超えていると想定されます。

通常、長期投資といっても、せいぜい 2～3 年。10 倍株（テンバーガー）が夢とされる株の世界にて「50 年近く持ち続け、株価 100 倍以上」は明らかに異次元です。

彼の名はフィリップ・フィッシャー。有名投資家として知られているウォーレン・バフェットが師匠のベンジャミン・グレアムに次いで影響を受けた人物です。

今回の資産運用レポートでは、フィッシャー流成長株投資について取り上げます。

2 得意分野

フィッシャーは技術分野に長けており、ハイテク株を得意としていました。

関心を寄せる対象企業の範囲は極めて狭く、それ以上の多くの企業には見向きもしませんでした。「ほんのいくつかの銘柄で大当たりを取れば十分」と考えていたようです。

投資を検討するのは、一流の経営陣と高度な技術水準の両方を兼ね備えている、ごく一部の銘柄に限られました。

彼は一般大衆と好み合わないため、広告や宣伝で揺れ動く消費者大衆の嗜好を頼りに成り立っている会社には投資を行っていません。また保険会社などの金融株も「よく知らない」という理由で避けていました。

一方「会社の質的な面を重視する」フィッシャーの手法を見習ったバフェットは、IT・ハイテクを避け、コカコーラなどの消費関連や金融株を好んでいます。

同じ長期集中投資派でも、得意分野のまったく異なる点が興味深いです。